



米子市埋蔵文化財センターたより

第6号

2012年9月

野上城跡と三部長龍寺谷たたら跡の調査－「鏡陵ミルク」銘の牛乳瓶が出土－

砂防ダムの建設工事に伴う伯耆町三部の野上城跡と長龍寺谷たたら跡の調査は、秋の気配の深まりと共に調査を終了しました。

野上城跡は、三部神社の杜叢に位置していて、現在でも曲輪の跡と井戸が残っています。今回調査した範囲は、砂防ダム堰堤部分のみの狭い範囲でしたが、丘陵の裾部で曲輪状に造成された痕跡を確認したことから、野上城跡の範囲が山裾まで広がることが判明しました。

三部長龍寺谷たたら跡は、鉄滓の捨て場となっていた「廃滓場」を検出したのみで、たたら本体を調査することはできませんでしたが、出土した鉄滓の特徴から、製錬鍛冶を行った近世のたたらだったと考えられます。この「たたら」の表土から出土した、懐かしい牛乳瓶について紹介します。この牛乳瓶は、高さ14cmの円筒形で、無色透明なガラスを使用しています。体部には、青字で「鏡陵ミルク」「要冷蔵」とプリントされています。また、底部付近の側面には「㊤ 180cc」と陽刻されています。この㊤マークは、昭和35年以降に流通する瓶に記載が義務付けられたもので、180ccの表記も、昭和45年に牛乳瓶の容量が全国で200ccに統一されていることから、昭和35年から45年にかけて生産された牛乳瓶であることが分かりました。「鏡陵」の文字は、日野高等学校(平成12年に日野産業高等学校と合併)の同窓会の名称と同じであることから、現在日野高の教諭である木村三三男先生にこの牛乳瓶について伺ったところ、昭和51年頃までは学校内の農場で、実習の一環として生徒が搾乳した牛乳を販売していたそうです。主な販路は、日野町の黒坂地区が中心でしたが、地元では人気の牛乳だったそうです。この牛乳がいつから販売されていたのかを調べてみると、生産業者を網羅した昭和37年版『全国乳業年間』に日野産業高等学校の名が記載されていたことから、昭和36年にはすでに販売を行っていたと考えられます。この牛乳瓶について、その他の情報をご存じの方があればご教示頂きたいと思います。(佐伯)



野上城跡の中世墓



発掘調査情報

境内海道西遺跡

古墳時代中期の円墳2基を発見！—南部町^{さかい}境—

4月から始まった境内海道西遺跡の調査も約半分が終了し、丘陵部の様相がわかってきました。

この遺跡で山の斜面に人々が暮らし始めるのは弥生時代後期、山の斜面を削って造った平坦面に竪穴住居や掘立柱建物が造られています。丘陵を横切る細長い平坦面は道路として使ったのでしょうか？固く締まっていた。その後、古墳時代中期になると、生活域から墓域に転換していくようで、尾根東側に2基の円墳が作られます。この円墳は、隣接する福成早里遺跡の古墳と一連のものと考えられます。2基の円墳はいずれも同じような時期に作られており、構築方法なども類似しています。残念ながら、墳丘部は奈良時代の削平により失われていましたが、周溝内から土壙墓がそれぞれ4基検出されました。これは周溝内埋葬と考えられるもので、赤彩された直口壺や高坏などの供献土器が良好な状態で出土しました。ここで死者を弔うためのお祭りを行ったのでしょうか？

円墳は2基とも法勝寺川が見渡せる場所に作られており、眼下に沖積平野を睥睨し、三崎殿山古墳を崇めながら、ここで眠りについた被葬者達の想いが、時を越えて私達に伝わってくるようです。
(濱野浩美)



周溝内埋葬の状況



周溝内に供献された土器

整理室たより

旧淀江町の埋蔵文化財整理室プレハブの撤去に伴い保管してあった資料や出土品類が当センターに移管搬入されました。おもに上淀廃寺整備に伴う11次～15次調査の瓦類、渡り上り遺跡出土品等と、発掘調査資料の測量原図類等です。

また図書も淀江町へ送付された全国の報告書類で、米子市へ送付されたものと重複するものが多いため、今後の活用方法の検討が必要となりました。



米子市宗像地区の丘陵上には、多数の古墳が所在しており宗像古墳群と呼ばれています。古墳群は、標高 139 m の高山から標高 50m の宗形神社裏山にかけて 42 基が分布しており、前方後円墳 5 基と円墳 37 基で構成されています。横穴式石室を開口するものが知られ、古墳時代後期の古墳群と考えられています。

このうち宗形神社裏には 24 基が密集し群集墳を形成しています。北の山稜に位置する宗像 1 号墳は全長 37m、後円部径 28m、高さ 6 m を測り、古墳群中最大規模を持つ前方後円墳です。この古墳は 1952 年に盗掘され、その翌年に佐々木古代文化研究室によって調査されました。埋葬施設は後円部に位置する 2 つの横穴式石室です。前方部寄りの A 石室は玄室の全長 3.3m、高さ 1.55m です。玄室内からは円頭柄頭、直刀、刀子、鉄鉾、鉄鏃、金銅製の帯金具、耳環、勾玉、管玉、鈴付雲珠、須恵器など多数発見されています。B 石室は、玄室全長 2.3m、高さ 1.1m で A 石室より小形で石室内より須恵器、銅鈴、直刀、刀子、勾玉、切子玉、小玉等が発見されています。これらの遺物から 6 世紀後葉の築造と考えられています。

宗像 1 号墳は、この地域で勢力を誇った一族の中でも傑出した首長のお墓です。(小原)

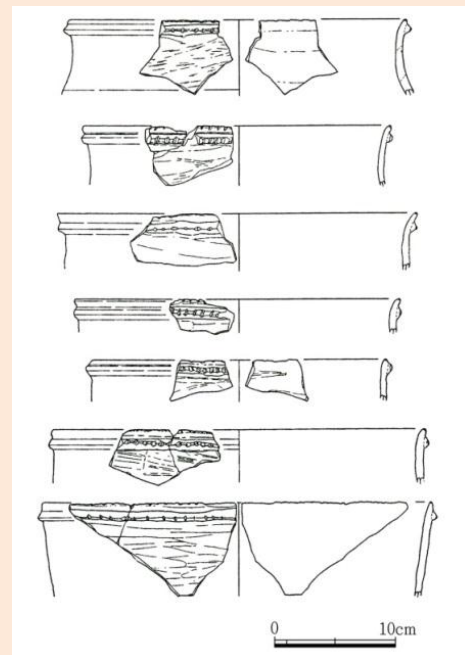


宗像 1 号墳 B 石室

コラム—縄文遺跡を掘る ⑤縄文時代晩期 —古市河原田遺跡—

米子市南西部の要害山とトウド山に挟まれた加茂川の上流部の細長い谷筋平野に立地する遺跡です。周辺には古市カハラケ田遺跡、古市コガノ木遺跡、古市宮ノ谷山遺跡、古市古墳群などが所在し、縄文時代後期から古墳時にかけての人々の営みがみられます。

1998 年に国道 180 号バイパス建設に伴い発掘調査された古市河原田遺跡は、縄文時代中期から近世に至る複合遺跡ですが、縄文時代後・晩期の溝や土坑が発見され、土器や石器が出土しました。なかでも、晩期の凸帯文土器は質量的にまとまっており、この時期の土器編年を考えるうえでの代表的な遺跡です。



センター・資料館日誌

- 7月4日 広大大学院生が素文鏡研究で来館。
7月5日 岸本バイパス関係遺跡調査の現地協議を行った。
7月8日 五千石小学校3年生学年行事で勾玉づくりの出前講座を行った。
7月13日 岸本バイパス関係遺跡調査の計画協議を県土、伯耆町教委と行った。
7月14日 鳥取県埋文センターの木器研修に職員が参加した。
7月16日 埋文センターの校庭で深夜若者たちが騒ぎ、警察が指導した。
7月21日 佐伯調査員が北九州市へ研修出張。
7月23日 米子市教育文化事業団連携事業で上淀廃寺の案内と解説を行った。
7月24日 福生東小なかよし学級へ勾玉づくりの出前講座を行った。
7月25日 福市考古資料館企画展「発掘調査速報展」が開幕した。
南部バイパス福成大坪上遺跡調査と工事との調整を行った。
7月27日 米子市教育文化事業団連携事業で境内海道西遺跡において小学生に発掘体験を指導した。
鳥取県埋文センターの君嶋氏が八禽鏡調査で来館された。
8月1日 明道小なかよし学級へ勾玉づくりの出前講座を行った。
8月4日 埋文センターで北陸学院大学小林教授の指導により「スス・コゲワークショップ」が5日まで開催された。
8月6日 島根大学生、卒論研究で目久美遺跡黒曜石の調査に来館された。
8月10日 尚徳小なかよし学級へ勾玉づくりの出前講座を行った。
8月20日 島根大考古学研究室が古墳資料調査

で31日まで来館された。

- 8月24日 北陸学院大学小林教授が「スス・コゲワークショップ」のまとめに再来館された。
9月8日 第3回山陰近世考古学研究会がセンターで開催された。
9月9日 米子城下町ガイドツアー第2回・内町～寺町方面を開催した。
9月26日 東北芸術工科大学北野准教授が切子玉調査で来館された。
9月30日 講座・米子城発掘物語を開催した。

行事案内等

講座・米子城発掘物語2

米子城跡・武家屋敷跡から出土した陶磁器について、出土品をみながら学習します。

開催日時 10月20日(日)

午後1時30分～3時30分

開催場所 山陰歴史館

定員30名 申込は電話・FAXでセンターへ

編集後記

ゴーヤのグリーンカーテンも今年はよく茂り、異常に暑かった夏も、お彼岸とともに涼しくなり秋の気配が感じられる頃となりました。

各現場の発掘調査もいよいよ佳境に入り、調査員は頑張って現場に向かう毎日です。

発行日 平成24年9月30日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 米子市教育文化事業団

電話・FAX 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp